

○ E Mを使ったスクリプトの作成とスケジューリング起動

○ E Mを使った RMAN バックアップ・スクリプトの作成

自動化のため処理の計画と実装

スケジュール対象

- ・ O S コマンド
- ・ RMAN スクリプト
- ・ S Q L スクリプト
- ・ Statspack パージ

ステップ 1.

自動化対象の処理の内容計画を立てる

- ・ 何を自動化にするか (例 : RMAN バックアップ)
- ・ 取得日時 (例 : AM 2:00)
- ・ 取得間隔 (例 : 毎週月曜日)
- ・ 取得対象 (例 : データベース全体)
- ・ 取得ポリシー (例 : オンラインでのフルバックアップ)
- ・ 保存ポリシー (例 : 1 世代の保存)

ステップ 2.

スクリプトを作成する

ステップ 3.

ジョブを作成して、スケジューリングする

↓
スクリプト作成とスケジューリングの操作方法

[OEM画面] → [ホーム] タブ → 関連リンク・セクション ジョブ

[ジョブ・ライブラリ] の画面

ジョブ・アクティビティ~~ライブラリ~~

ジョブタイプ 名前 所有者

ライブラリ・ジョブの作成 RMANスクリプト ▼ 実行

選択	名前	ジョブタイプ	所有者
作成済みジョブの一覧			

[RMANスクリプト・ジョブ] の入力画面

入力項目と設定内容

カテゴリ	入 力 項 目	内 容
一般	名前	ジョブ名
	ターゲット	対象となるデータベースを選択する
パラメータ	RMANスクリプト	実行させるRMANスクリプトの実行命令（ステートメント）を入力する
資格証明	データベース資格証明	Oracle のユーザー名とパスワード
	ホスト資格証明	OS のユーザー名とパスワード
スケジュール	ジョブの繰返しタイプ	1 回実行 or 繰返し実行
	頻度タイプ	繰返し頻度の単位を分、時、日、週、月、年から選択する
	繰返し間隔	次の実行への間隔
	タイムゾーン	タイムゾーン
	開始日	ジョブを開始する日付 (繰返しの場合は、初日の指定)
	開始時間	ジョブを開始する時刻
	猶予期間	ブラックアウトなどの理由で Oracle が停止していた場合に、起動状態に戻った時のスケジュール時間とのずれの許容時間範囲 (この時間範囲いなければ、ジョブを開始させる) 通常 10 分
	繰返し期限	繰返し実行の実行最終日

作成 ボタンをクリックすると、OEM が設定に基づいて「ジョブの作成」と「ジョブのスケジュール」が行われる